

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	多施設共同研究による青森県内で発生した施設外分娩の要因と母児の合併症評価の探索
2. 対象患者	青森県内で施設外分娩となった産婦
3. 対象となる期間	2015年1月1日 ～ 2026年12月31日
4. 実施診療科等	産婦人科
5. 研究代表者	氏名 横山美奈子 所属 弘前総合医療センター産婦人科
6. 既存試料・情報のみを行う機関 (既存試料・情報のみを行う者)	青森県立中央病院 千葉 仁美 青森市民病院 佐藤 麻希子 健生病院 橋本 吏可子 つがる総合病院 谷口 綾亮 八戸市立市民病院 高橋 聡太 八戸赤十字病院 曾田 剛史 弘前大学医学部附属病院 伊東麻美 三沢市立三沢病院 丸山 英俊 むつ総合病院 武田 愛紗 エルム女性クリニック 佐藤 秀平 レディスクリニック・セントセシリア 上田 克文 ゆざわ産婦人科クリニック 湯澤 映
7. 研究の意義	青森県内の分娩取扱施設に搬入・収容された「施設外分娩(自宅・路上・救急車内等の医療機関外で出生した母児)」症例について、発生要因および予後関連因子を明らかにすること
8. 研究の目的	日本では周産期医療体制の整備により施設分娩が一般的となっている一方、人口減少や分娩施設の集約化、地域偏在などにより、受診や搬送の遅れが生じ得る状況にあります。また、施設外分娩は発生頻度が高くないため、単施設での経験にとどまりやすく、実態や課題が十分に可視化されていません。 青森県は広域であり、特に冬季には積雪や路面状況など地理・気象条件の影響を受けやすく、搬送時間の延長や救急資源の制約が母児の転帰に関与する可能性があり、県内の総合病院に集約される症例を横断的に収集・解析することで、地域特性を踏まえたリスク構造と医療提供体制上の課題(受診行動、救急隊との連携、初期保温・蘇生対応、適切な搬送先選定等)を具体化し、母児の安全確保および周産期救急体制の改善に資する実証的根拠を提示することを目指します。
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する 場合の方法等)	研究機関の診療録から以下の情報を使用します ①患者基本情報:身長、非妊娠時体重、分娩時体重、非妊娠時BMI、分娩時BMI ②既往歴等:既往歴、妊娠分娩歴、内服歴、社会歴 ③分娩に関する情報:分娩場所、分娩週数、施設外分娩に至った理由、分娩時の出血量、バイタルサイン(血圧、心拍数、意識レベル)、血液検査所見、 ④病院搬送に関する情報:搬送手段、分娩から病院到着までの時間経過、搬送中の治療内容 ⑤周産期における合併症およびその治療の有無 児に関する情報:出生時体重、Apgar score、合併症、病院到着後の治療内容、出生1か月時の合併症の有無 収集した情報は、個人を特定できる情報を削除した上で、パスワード付USBで弘前総合医療センターへ提供します

10. 個人情報の保護	利用に当たっては氏名, 住所, 電話番号, 患者番号等個人を特定できる情報を削除し, 本研究のための固有の番号を付して(これを匿名化といいます)行います。研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。	
11. 利益相反に関する状況	なし	
12. 連絡先	既存の試料・情報の提供のみを行う者: 弘前大学 産科婦人科 伊東麻美	
	電話	0172-39-5283